

2012岐阜清流大会視察兼派遣審判 レポート

長崎陸協女性部

部長 尼崎 恵美

こんにちは、女性部長尼崎です。
11月の2週目から岐阜県へ国体の岐阜清流大会へ派遣審判として行ってきました。
その報告をさせていただきます。



と、その前に3日の間、心やさしく指導してくださったり、声をかけてくださった現地の岐阜陸上競技協会のみなさまには感謝でいっぱいです。

なかでも、競技者係の皆さまと過ごした3日間は、学びがたくさんあり、充実したものでした。審判員の仲の良さと協力体制のすばらしさに感心させられるばかりで、連携プレーにもさすが！と感動しました。岐阜の陸上競技協会ではランニングチームもあるようで、何と女性がたくさんそこに参加し、市民ランナーとしてもエンジョイされているようです。「五島夕焼けマラソン」にも招待します！と本当に仲良くなりました。私も来年走ろうかな～。女性部のみなさんに、参加の呼びかけをしちゃったりするかもしれません☆みなさんで参加して、女性部活動をさらに盛り上げていけたらよいですね。



競技者係を担当された
岐阜陸上競技協会の女性陣
です☆☆

○視察を通して（現地の様子・気づき）

- ・障害者大会は、県教育委員会が主。運営を陸協が（競技面のみ）行う形
従って、サブトラック周辺かつ競技者係テントに近い所に、車椅子検定所や介助申請所が設けられており、そこは県の関係者が入られていた。介助申請は毎日申請者が多く、競技者係にその申請を間違えてしに来られる方も多くいたので、目立つように設置する必要がある
- ・岐阜で素晴らしかったのは審判員の団結。例として、幅跳びを挙げると、競技終了旗をあげると全員審判員がたちあがり、本部上スタンドに一斉に礼をするところである。また、競技者係も最終種目は全員が1列に整列をし、競技者を見送る姿は、競技をする方々もうれしそうであった。
- ・種目数が多いので、時間が大幅に遅れることもある。いかに調整が大事かがわかる。

○現地役員に入って[派遣審判で活動しての気づきなど]

このたびの役員で、私は「2種目同時出場申請用紙」「棄権届」「リレーオーダー」の3つの仕事を担当しました。（2人体制。一緒にしたのは岐阜陸協の井尻さん）
障害者大会は、この「2種目同時出場申請用紙」が一番大変である。コールもれを事前に防ぐために、申請を事前にさせ、スタートリストに記載しておく、そして幅跳びからそのまま100のスタートに行く。（1種目目は必ずコールがいる）こういうシステムをきちんととっていた。うまく連携がとれていたとおもう。
また、競技者係は5人1組でグループを作り、それを競技ごとにローテーションでうまくまわせていたため、スムーズであった。（別紙・添付資料あり）

- ・競技者係のブースに来る前に、補助員が種目の書いたプラカードをもち、ブース前で整列をさせてから、テントに入るしくみがとられてあった。（5分前整列）補助員がうまく活用されている。補助員は裏の倉庫にずっと1日中控える形。
- ・競技者係の場所にパソコン設置[スタートリストを出すのは情報処理の人間。競技者係はっさいパソコンを使用していない]



これは、競技者係の受付場所ではりつけている。「2種目同時申請」「棄権届」「リレーオーダー用紙」「貴重品あずかり」はコールと反対側で行う

[岐阜清流大会競技者係配置]

